

「第2次菊池広域連合地球温暖化対策実行計画」に基づく 令和6年度分実施状況及び目標達成状況の報告

令和8年1月
菊池広域連合事務局総務課

1.本計画について

地球温暖化対策推進法第21条第1項に基づき、地球温暖化対策計画に即して、菊池広域連合が実施している事務及び事業に関し、省エネルギー・省資源、廃棄物の減量などの取組を推進し、温室効果ガスの排出量を削減することを目的として策定しています。

連合では令和3年度に策定しており、令和5年度の菊池環境保全組合との統合を機に、対象施設の追加及び目標値の修正を主な内容とする改定を行っております。

2.報告について

本計画の「6 実行計画の推進体制」において、事務局長を計画の推進責任者、事務局各課長と消防本部総務課長を推進担当者とし、毎年度、推進責任者及び推進担当者が出席する会議において、取組の実施状況及び目標の達成状況を報告することとなっております。

3.令和6年度各施設の温室効果ガス排出量

対象施設は、菊池火葬場、大津火葬場、クリーンセンター花房、消防本部（南消防署含む）、北消防署、西消防署、桜消防署、菊池環境工場クリーンの森合志、環境美化センターです。

これらの施設における、令和6年度中の使用燃料の量及び使用電気量から算出した温室効果ガス排出量が、以下の表に記したものです。

単位：kg-CO₂

年度	目標値	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
ガスの種類							
二酸化炭素 (CO ₂)		15,942,178	17,535,839	18,786,698	25,906,452	21,025,373	21,556,399
メタン (CH ₄)		1,311	1,593	2,015	1,928	2,113	2,054
一酸化二窒素 (N ₂ O)		603,590	614,469	740,265	712,594	611,874	571,362
ハイドロフルオロカーボン (HFC)		72	72	72	86	34	34
計	16,547,000	16,547,151	18,151,973	19,529,050	26,621,060	21,639,394	22,129,849
目標値に対する割合 (%)		基準年	109.7%	118.0%	160.9%	130.8%	133.7%
		(目標値クリア)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

※令和元～4年度は、統合前の菊池広域連合と菊池環境保全組合でそれぞれ算出された数値を合算しています。

4.目標達成状況について

令和6年度の温室効果ガス排出量は3.のとおりであり、前年度から増加して目標値をクリアすることはできませんでした。

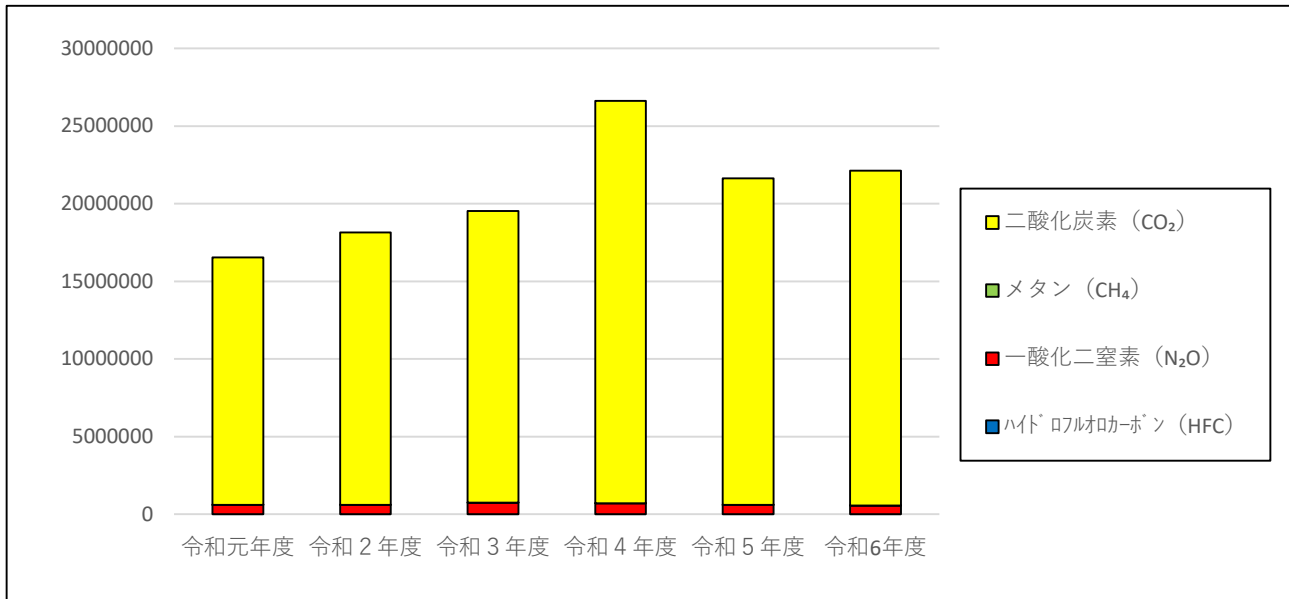
排出量増加の要因について、二酸化炭素の増加が挙げられます。これは、クリーンセンター花房、両火葬場及びクリーンの森合志内にある最終処分場の燃料使用量の増加が原因と考えられます。

一方、メタン及び一酸化二窒素の排出量が減少していますが、これは、クリーンの森合志での年間ごみ焼却量が減少していることが要因に挙げられます。

当該結果を踏まえて計画を見直し、今後も実行計画内「5. 目標達成に向けた取組」を継続していくことが求められます。

単位：kg-CO₂

経年変化図



令和6年度分 温室効果ガス内訳表

ガスの種類	発生元	排出量	比率(%)
二酸化炭素 (CO ₂)	燃料の使用 (自動車以外)	1,114,375	5.04%
	自動車の燃料	206,840	0.93%
	電力消費	1,095,964	4.95%
	一般廃棄物焼却炉	19,139,220	86.49%
	小計	21,556,399	97.41%
メタン (CH ₄)	自動車の走行	23	0.00%
	一般廃棄物焼却炉	1,023	0.00%
	浄化槽	1,008	0.00%
	小計	2,054	0.01%
一酸化二窒素 (N ₂ O)	自動車の走行	248	0.00%
	一般廃棄物焼却炉	570,743	2.58%
	浄化槽	372	0.00%
	小計	571,362	2.58%
ハイドロフルオロカーボン (HFC)	HFC封入カーエアコン利用分 (HFC-134C)	34	0.00%
合計		22,129,849	100.00%

■二酸化炭素 (CO₂)

物を燃やしたり、生き物が呼吸をしたりするときに排出され、人間の生活や生産活動に密接に関連しているものです。石炭や石油など、化石燃料を燃やすことで大量の二酸化炭素が発生します。

■メタン (CH₄)

生ごみなどの有機物が腐るときに発生します。このガスは、天然ガスの主要な成分で燃料としても使われます。温暖化効果は二酸化炭素の25倍になります。

■一酸化二窒素 (N₂O)

日常活動では焚き火や車の走行、農業では家畜糞尿や堆肥、工業的には、重油の燃焼などさまざまな状況で発生し、ごみ焼却施設からも発生します。温暖化効果は二酸化炭素の298倍になります。

■ハイドロフルオロカーボン (HFC)

オゾン層破壊物質CFCの代わりに使われるようになった、一般に代替フロンといわれる物質です。オゾン層は破壊しませんが、温暖化効果は二酸化炭素の1,430倍になります。ここでは、HFC-134aを算定対象としています。